○福沢地区タウンミーティング議事録

日　時：令和８年１０月２４日（土）
　　午後２時から３時１０分
場　所：福沢公民館
出席者：３４人

テーマ１　富山市の認知症政策について

＜主な説明事項＞

１　本市の人口と高齢化率・認知症高齢者数の将来推計
２　認知症施策の考え方・計画
３　見守り・相談支援・通いの場・補聴器購入費用助成・普及啓発の取り組み
４　成年後見制度

【福祉保健部の説明に対する質問】

（福沢地区自治振興会長）

・家族や知人、あるいは自分自身について「認知症かもしれない」と思った場合、地域包括支援センターなどに相談すれば、その後の診断や色々なことについて、そちらの方で対応していただけるのでしょうか。

（福祉保健部長）

症状の程度にもよりますが、まずは地域包括支援センターにご相談いただければと思います。状況に応じて、ご本人に医師の診断を受けていただき、進行を遅らせる薬の処方や生活指導といった医療面の対応をお勧めするほか、介護サービスが必要な方については、ケアマネジャーにつないで介護認定の手続きを進め、デイサービスなどの利用につなげるほか、ご家族向けの家族介護教室などもご案内いたします。また、医療や介護サービスの利用に至らない場合でも、地域包括支援センター

のネットワークを活かし、大山地域で作っていただいている「見守りネットワーク」や、「認知症の人と家族の会」などと連携しながら、情報共有や支援を行ってまいります。

（福沢地区自治振興会長）

・本日ここで説明を受けた人や、パソコンやスマートフォンで調べたりできる世代はよいのですが、当地区のような過疎化が進む中山間地域では、一人暮らしや高齢者のみの世帯が多く、いざ親や配偶者が認知症になった際にどこへ連絡すべきか分からないケースが多いと思います。周囲の人が気づき、ご本人にも受診や相談を促せるよう、手元に置いて日常的に目に入る啓発シールや資料を作成するなど、過疎地域の実情に即した啓発方法を検討していただけないでしょうか。

（福祉保健部長）

皆様が手に取って共有でき、ご本人にも働きかけられるような資料があれば、次のステップに進みやすくなると考えますので、ご意見を踏まえて検討させていただきます。

・認知症の方が行方不明になった際、「徘徊ＳＯＳ緊急ダイヤル」で情報配信がありますが、捜索には多くの人員と時間を要するため、そのロスを解消できないかと感じています。当地区のように自然が多い場所では、山林や藪の中に入って倒れられると、通常の捜索ルートでは発見が困難です。人権面の配慮は必要ですが、ご家族の同意を得た上でＧＰＳ端末を身につけていただき、行方不明時には地域包括支援センター等で位置情報を特定して集中的に捜索するような、先端技術を活用した仕組みも検討していただけないでしょうか。

（福祉保健部長）

本日配布したパンフレットの中にも、実はＧＰＳを活用した事業の案内がござい

ます。以前から制度として設けておりますが、日進月歩で技術が進む中、従来の機器は費用面の課題などもあり、見直しを図っていきたいと考えております。ご指摘のとおり、協力団体による捜索だけでなく、ＧＰＳ等を活用することが早期発見に最も有効であると認識しておりますので、最新の技術を取り入れた事業について引き続き検討してまいります。

テーマ２　暮らしの中の選挙について

＜主な説明事項＞

１　選挙管理委員会の組織と主な仕事

２　選挙の現状と課題

３　期日前投票の仕組みと投票場所

４　選挙におけるＤＸ

【選挙管理委員会の説明に対する質問】

なし

【その他意見交換】

・各世帯に配られる投票所入場券について、新興住宅地など顔見知りが少ない地域において、他人の入場券を使って「なりすまし投票」を行うことは可能なのでしょうか。

（選挙管理委員会事務局長）

厳密に申し上げますと、入場券を他人に渡して投票することは技術的には可能です。ただし、投票立会人は地元から選出していただいており、投票事務従事者も該当地区の職員を重点的に配置しているため、どなたが来られたか概ね把握できる体制をとっております。技術的には可能であっても決してあってはならないことですので、啓発等を通じて防止に努めてまいります。

（福沢地区自治振興会長）

・期日前投票の立会人を何度か経験していますが、入場券裏面の宣誓書に事前に氏名を記入してこられない方が多く見受けられます。ただ、過去の選挙の際、大山会館の期日前投票所では、受付前の廊下で職員が事前記入を案内しており、非常にスムーズでしたので、こうした取り組みは良いと思います。ただ、投票会場が狭く、複数の選挙が重なって投票箱が並ぶ際、来場された方が緊張してどの投票箱に入れるか迷われる場面があります。立会人や職員の目配りが届きにくいこともあるため、矢印の掲示だけでなく、順路や投票箱の区別をもう少し分かりやすく色分けするなど、工夫をお願いしたいです。

・衆議院議員選挙など選挙区が１区と２区に分かれる際、２区である大山会館の期日前投票所に１区の有権者の方が誤って来られるケースが毎回必ずあります。富山市南部（１区）の方が本庁や堀川の期日前投票所へ行くには距離があり混雑もするため、南部地域と堀川の中間あたりに期日前投票所を新設することも検討していただけないでしょうか。

（選挙管理委員会事務局長）

入場券裏面の宣誓書への事前記入を会場入口で促す運用については、他の投票所でも広めていきたいと考えております。

投票所内のレイアウトについては、スペースに限りがある会場もございますが、立会人や管理者がしっかりと目配りでき、有権者の方にとっても分かりやすい配置となるよう工夫して対応してまいります。

期日前投票所の増設につきましては、１週間以上にわたり多数の職員を動員する必要があるため、新設は難しいのが現状です。ただし、本庁や堀川の期日前投票所における混雑は課題として認識しておりますので、改善に向けて対応を検討してまいります。

（福沢地区自治振興会長）

・有害鳥獣対策について伺います。サルの被害が多く、県に対して捕獲頭数制限の撤廃を要望し、今年度から制限が撤廃されたと聞いておりますが、福沢地区には頻繁に出没する群れがいるため、ボスザルなどを選定してしっかり捕獲を進めていただきたいです。

・クマについては、今年は木の実が多く出没が比較的少ないものの、一度人里に出たクマは山奥に帰らず居着いているのではないかと心配しています。今春に富山市で発生した人身被害も居着いているクマによるものではないかと思いますし、過去にはクマによる死亡事例も発生していますので、県と連携し、住民の危機感を踏まえた対策をお願いします。

（市長）

クマにつきましては、現在、富山県において捕獲頭数の管理計画を策定し、増えすぎた頭数を適正な数に減らす方向で進めております。把握しているだけでも、昨年度は県全体で３５０頭以上、富山市内だけでも１３０頭以上を捕獲しており、適正な頭数に戻すよう取り組んでおります。

サルにつきましても、県の管理計画の中で、平地や中山間地域の人里に出没して被害を及ぼす「加害群」については、一定程度捕獲を進めてよいという方針になっております。市としても県や猟友会と協力し、適正な頭数に戻せるようしっかりと対策を進めてまいります。

※発言の一部を整理して掲載しています。（広報課）